

●とびっくす●

瀬戸内国際芸術祭研修旅行

徳島支部 岩本 祥一

9月25日・26日と1泊2日で瀬戸内国際芸術祭へ参加してきました。総勢14名、直島に宿をとり、開催地の島々を巡りました。

芸術祭も終盤に差し掛かっていることもあり、参加者の中には、この島には行ったという人もいたことから、全員で行動したのは直島での懇親会と豊島の鑑賞のみで、その他は2グループに分かれての行動となりました。1日目は、犬島班と男木島・女木島班に、2日目は、男木島班と直島班に分かれました。

僕は、1日目は男木島・女木島班、2日目は直島班だったのですが、シルバーウィークの最後の連休ということもあったためか、どの島に行っても人・人・人の大盛況。



▲ 遠くに見える長蛇の列は船待ち

これだけ大盛況となる芸術祭の背景には、「芸術」という人を惹きつける要素のほかに、芸術が「島々に点在」しており、島を結ぶ交通機関が「船」となるといった特異な鑑賞内容となっていることがあるようです。

また、今回、芸術祭に参加して一番気になったのが、若い子が多いということです。もちろん、老若男女問わずさまざまな年齢層の人がいたのですが、そんな中でも若い子の存在が目立っていたように感じました。これは、参加者みんなが感じていたことのように、旅行中の話題の一つでした。島の人の話によると、その多くは観光客らしいのですが、なかには島の空き家に泊まり込みでのボランティアスタッフもいるそうです。

今回の研修旅行では、参加するまでは芸術作品の鑑賞がメインだと思っていましたが、ふりかえてみると、芸術作品を鑑賞するためのルート選定や作品の配置等、スタッフの方々が、どうすれば島をひとつのミュージアムとして楽しんでもらえるか試行錯誤されたんだと感じる場面が多々あり、芸術鑑賞よりもスタッフ側のおもてなしを見つける楽しさが優っていたように思います。また、「芸術でにぎわう島々」がとても魅力的に感じるとともに、この芸術祭が終わった後の島々の姿が、どのように変化していくのか、関心を持ちました。



▲ 町なかに設けられた芸術作品

最後に、お忙しい中、今回の企画・準備等行って頂いた高田さん、お世話になりました。

また、次の企画も楽しみにしています。



▲集合写真（旅館食堂にて）

ひょうたん島八景

その3

徳島支部 矢部洋二郎

ところで、ひょうたん島周遊船の乗船場は平成21年4月に寂聴棧橋が完成して、両国橋たもと、あわぎんホール南側と併せて三箇所になりましたが、読者の多くは両国橋乗船場の利用がほとんどだと思います。平成19年に行った乗船会では両国橋乗船場は使わず、徳住橋たもとの「雁木（がんぎ）」、助任川河岸緑地、あわぎんホール南側の三箇所を使用しました。これは、ひょうたん島周遊船乗り場が一周6kmの何箇所にもあり、どこからでも手を上げて乗り込めるようになれば面白い、ということから選んだものです。

この時のアイデアを青年部の皆さんが展開させ、「あしたのひょうたん島プロジェクトー川の駅構想ー」としてまとめたものを、「まちかど4月号」に掲載しています。ぜひ、もう一度、読んでみてください。

八景候補お探し隊



もうひとつの[市民の声]を集めるために、「八景候補お探し隊」という市民参加のイベント調査を、平成21年10月に実施しました。一班5人×6班=30人に

よるひょうたん島景観調査を、午前は川べりの遊歩道から、午後は周遊船から行い、次図のような投票により、八景候補を明らかにしてみました。

参加者募集は、徳島新聞の「情報とくしま」と徳島市広報誌「広報とくしま」で行いましたが、即日定員に達するという人気ぶりでした。この原因は企画が単純明快で良かったためなのか、昼食にとくしまバーガーをボードウォークで食べられる「おまけ」が効いたのか。両方の効果かもしれないが・・・。

調査ボードの投票状況と前号のお気に入りマーク▲の分布は、ほとんど重なっていました。

一周約6kmを2時間程度をかけて、八景候補を探しながら歩きましたが、こんな時には「とくしま観光ガイドボランティア会」が行っている「まち歩き」を大いに参考にすべきでした。参加者同士でワイワイしゃべりながら歩きましたが、要所では3～5分の、その場所に因んだ的確な説明や解説が、やはり必要です。この反省から、班ごとの添乗員を前もって集めて、できるなら現地

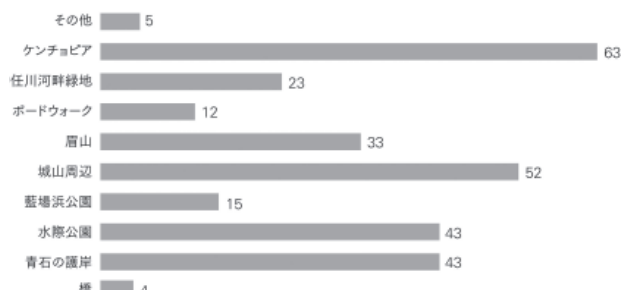
を一周しながら、説明文を各自で、作ってもらっておくのがよかったと思いました。あるいは、ボランティア会の実際のガイドに参加して、体験しておくのがベストだったでしょう。



なお、この調査ボードの他に、各班の参加者の指摘した八景候補を、ひょうたん島一周にわたり撮影してまわり、後日、八景選定の場面で使用しました。

地名・場所についての投票

気に入りスポット集計



この集計は乗船会とお探し隊の両方で、参加者から集めたものです。

眉山と青石の護岸に票が集まっています。特に、青石の護岸は好ましく受け入れられています。しかし、造園の専門家やデザイナーの方などの一部からは、薄い青石をあのように貼るのは良くない、今すぐにはがしてもらいたい、という声もあります。曰く、「石は積むものだ」というのです。

このあたり、一般向きの人気とプロの目との違いでしょうか？皆さんは、どちらに手をあげるのでしょうか？外壁の石張りとは石積みに関係に似ています。

以上の3つの資料が、言ってみれば、人気投票による八景候補となります。

—つづく—

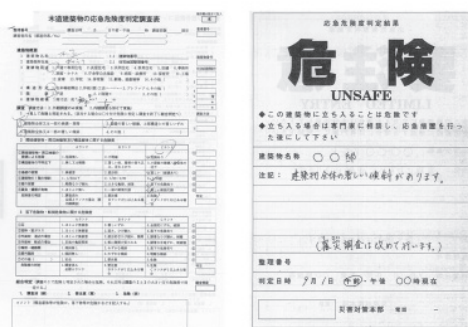
●支部だより●

H22徳島県総合防災訓練における建築物応急危険度判定訓練に参加

阿南・那賀支部 中山 俊秀

1923年9月1日に発生した関東大震災を忘れることなく災害に備えようと、政府は9月1日を「防災の日」と制定しました。

そして平成22年9月1日に海部郡海陽町の「まぜのおか」にてH22徳島県総合防災訓練が行われました。その中の応急危険度判定の訓練に海部支部のもとに阿南・那賀支部も6名参加しました。そのひとりとして、わたしも参加してまいりました。



訓練はまず3つチームに分けられました。

チーム1は「S造の事務所」

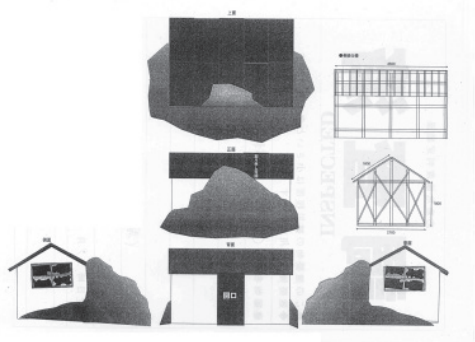
チーム2は「RC造のアパート」

チーム3は「木造の家屋」

そして、各チーム内に各担当が割り当てられます。

- 1.「調査表記録及び報告担当者」
- 2.「下げ振り・判定看板運搬担当者」
- 3.「コンベックス・判定看板記入担当者」
- 4.「クラックスケール・判定標識記入貼担当者」

わたしは、チーム3の「木造の家屋」の2.「下げ振り・判定看板運搬担当者」になりました。



私たちの応急危険度判定訓練は11:30～11:45の15分間のものでしたが、わたしも、初めての参加でしたので正直言って緊張していました。他の訓練の中には緊急

救助隊の事故車両負傷者救助訓練や海上自衛隊のヘリによる救助・救急搬送訓練など映画の「海猿」を思わせるような訓練でした。開閉不能状態の車を特殊な切断機器などを使って訓練とは思えないほど気合の入った救出を演じていました。



災害時には、この救助隊の人たちの努力によって、一人ひとりの命が救われているんだと、感動してしまいました。わたしは、「下げ振り・判定看板運搬担当者」として、建物の傾斜を測り間違った計測と報告をしないように気をつけました。また、看板を立てかけたとき風に飛ばないように、処置をして看板前のガレキを少しかたづけました。実際に看板が倒れたり、ガレキにつまづいて怪我をする人がいるかもしれない。などと思いました。応急危険度判定士は、明確な調査と報告をすることが、人の救助だと感じた1日でした。



応急危険度判定士「海猿？」たち

二話

阿南・那賀支部 丹波 林

支部研修旅行（遅ればせながら）

阿南那賀支部では毎年研修旅行を企画し、20～30名程度参加し各地へ行っています。今年は7月3・4日の1泊2日で岡山方面へ見学に行ってきました。あいにくの雨模様の天気の中、高梁では頼久寺武家屋敷を見学し吹屋ふるさと村へ。映画八つ墓村のロケにも使われた広兼邸を駐車場から見上げて江戸時代末期に築かれた石垣



雨中の広兼邸の石積み擁壁

に圧倒されたのち、吹屋ふるさと村のメインストリートにあたる町並みを散策しました。ベンガラ格子に赤銅色の石州瓦が印象的な堂々とした商家が軒を連ねています。



吹屋の町並みを散策する支部の会員

翌4日は宝伝港から犬島へ船で移動し、犬島アートプロジェクトを見学しました。鏡で光を取り込む手法に感動しつつ、「逆手に使えばいけないことにも使えるかも・」なんてことを考える自分の頭にハンマー「ゴッン！」。

地元のローカルなイベント

私の地元の神社の秋祭りが10月8・9・10日と催されました。数年前までは13・14・15日だったのですが、氏子の要望で「平日やったら寂れる一方だろ」の声が強く10月第二金・土・日に変更されました。土・日は皆さん他の予定がいろいろあるようで人出は若干増えたかなと思われるぐらいです。でも、ここ数年で変わったこと、それは子供たちの祭りへの主役としての参加。小学生、中学生、高校生がだんじりの中で鳴らす地拍子（奉納する太鼓演奏）のメンバーに加わったことです。それまでは大人のみでした。子供が太鼓をたたくとその晴姿を親が見に来るし、じじばも見に来るしで、雰囲気的ななんか盛り上がってきています。練習を通じて地域の中で世代を超えた交流が少しですが広がっていくような気がしています。

以下地拍子の一節です。（約5分の一部）

「ポポポポ タタタタ ポポポポ タタタタ
ポポタポタポポン タタポポポンポンポン
タツ天ポポポーポーポー 天テレツク天ポーツクポー
テレテレポポタポタポポン
ドンドンカタカンドンカタカン
タタポポタタポポタタポポポン
サッサーのサー」



だんじりの中で法被を着て頑張る子供たち

インテリアをリハビリするという考え方。

徳島支部 中山 尚子

9月26日の日曜日、阿波グローカルネット主催の福祉住環境コーディネーターのとくしまタウンミーティングに参加しました。

講師の池田由里子先生は熊本で「インテリアをリハビリする」という考えのもとに、医療・福祉施設などのインテリア計画やスタッフへのケアする環境を整備するためのセミナーなどを行っていらっしゃいます。

ところで、「インテリアをリハビリする」とは、聞きなれない言葉ですが、どういうことでしょうか？

それは、「インテリアが本来持つ効果を再び取り戻すこと」を示します。また、「インテリアを見直し環境をケアすることで、そこにいる人が明るさや前向きな気持ちを持っていきいきと活動できるようにする」という意味も持っています。「インテリアをリハビリする」というようなおもしろい発想は、池田先生が理学療法士からインテリアコーディネーターの道へ進まれたという異色の経歴が大きく影響しておられます。

さて、私たちの環境を見渡してみると、本当に多くのモノに囲まれているということに気づきます。モノが多すぎる生活では、人ではなく、モノ中心の生活になりがちです。

しかし、あくまで生活の主演は私たち。自分がこれからどのように暮らしていくかを考え、それに合ったものを選んでいくこと。これが整理収納につながり、安心安全な住まいにつながるということなどをお話いただきました。

講演の最後には、北欧の高齢者の部屋の写真も見せていただきました。私も数年前にスウェーデンの高齢者施設に視察に行ったことがあります。そこでは、まず一人ひとりが「住んでいる」という感じがしました。この表現はおかしいかもしれませんが、学生時代に見学に訪れた日本の高齢者施設は「入所・収容」であって、「住んでいる」という感覚はありませんでした。そのため、案内する側も見学者も、お住まいの方に対する心配りが欠けていて、この時点ですでに人間としての尊厳が損なわれていると感じたものでした。また、共用部分はまるで幼稚園か病院の待合のような飾りつけ。毎日そのような部屋でいて、どのように感じているのかな？と疑問にも思いました。

しかし、スウェーデンで見た施設は、本当の意味での「ホーム」であり、大人らしい生活というものが見えたように思います。

温かみのある木の床に、暖色系の照明器具、色とりどりの椅子に、遊び心のある壁の模様、落ち着いた色目の花柄のカーテン、などなど。インテリアがまったく違うのです。

それは、見た目のことだけではありません。

一人ひとりの生活を大切にする姿勢や「住まう」ということに対する意識の違いからきていると感じました。

高齢者や障害者の身体的な側面だけを見ていると、実はその心に環境が大きく影響していることや環境をケアするところまでなかなか意識が向きません。

だからこそ、人の生活に関わるより多くの職種の人が集まってそれぞれの視点から意見を出し、話し合える場があるということは非常に意義があると感じています。そのような場の1つが「とくしま福祉機器展」です。

11月27日・28日に開催される第5回とくしま福祉機器展では、「くつろぎコーナー」を新設し、体の大きさに合わせた座面の高さの違いや高齢者が立ち座りしやすい、障害を持ってもおしゃれしたいという願望を叶えてくれる衣類のリフォーム、足の変形に合わせたオーダー靴など、活動的で充実した生活を送るためのアイテムを、専門の方と一緒に探したり相談したりできるよう企画しています。

このタウンミーティングがきっかけで、インテリアやカラーのお仕事をされている方ともつながることができました。先生のお話を伺って、何らかの刺激を受けた私たち。次の誰かにこのことを伝え、実践していきたいな～と思いました。

最後に余談ですが、講師の池田先生と私はTwitterを通じてのツイ友。携帯からの140文字のつぶやきのやりとりで今回の講演会が実現しました。これは偶然のめぐり合わせではなく、必然的な出会いだったように感じています。

女性部からのお知らせ

☆☆ イベントのお知らせ ☆☆

「第2回 お菓子の家をつくろう」

あまくてかわいいお菓子の家♪

みんなで作ってみませんか！

お友達と一緒にご参加ください。

【開催日】平成22年11月27日（土）

【時 間】14：00 ～ 16：30（現地集合）

【会 場】住吉生協 1階会議室1.2

（徳島市住吉5丁目50） 駐車場有り

【定 員】20名 小学3年生～6年生

【参加費】500円

【問い合わせ先】徳島県建築士会事務局

TEL.088-653-7570

【主 催】（社）徳島県建築士会

【主 管】（社）徳島県建築士会女性部会

●士会だよりー本部●

応急危険度判定士資格認定（更新）講習会のお知らせ

徳島県では、次のとおり「徳島県地震被災建築物応急危険度判定士資格認定（更新）講習会」を開催します。

講習対象者は、徳島県内に在住又は勤務し、次のいずれかに該当する方です。

- ・新規に判定士の登録を希望する建築士
- ・平成17年3月31日以前に登録した判定士
- ・平成17年度登録の判定士
- ・県・市町村に勤務する建築・土木技術者

開催日時：平成23年1月27日（木）午後2時～4時30分

開催場所：徳島県建設センター7階

申込先：徳島県建築士会（電話 088-653-7570）
徳島県県土整備部建築開発指導課
（電話 088-621-2595）

申込期日：平成22年11月22日（月）～23年1月24日（月）

※受講料は不要です

詳細は別紙折り込みをご参照ください。

●士会だよりー本部●

ピンポン・テニスサークルのご案内

□ピンポン

練習場所 大松小学校体育館（亀さんクラブと合同）
徳島市大松町上野上9

練習日 毎週木曜日（19：30～22：00）

参加費 一人一回100円（月額500円）

□硬式テニス

練習場所 大神子テニスセンター

第2回練習日 10月3日（日）17：00～21：00

参加費 一人1,000円程度

※毎月1回練習予定

建築士会本部行事案内 平成22年

11月		12月	
1日	一日会（士会会議室）	1日	一日会（士会会議室）
5日	中四国ブロック職員会議（島根県）	8日	建築相談（ ）
6日	リフォームセミナー2010（木推）（建設会館）	9日	事業研修委員会（ ）
7日	ソフトボール大会（吉野川南岸G）	15日	建築相談（ ）
8日	シニア会（士会会議室）	19日	常任理事会・理事会（建設センター）
10日	建築相談（ ）	28日	仕事納め
10日	まもりす全体会議（ ）		
12日	徳島県建築ときわ会総会（美波町）		
17日	建築相談（士会会議室）		
19日	中四国ブロック会議（岡山市）		
19日	法テラス意見交換会（弁護士会館）		
21日	防災訓練（福島小学校）		
25日	総務委員会（士会会議室）		

●士会だよりー女性部●

イベントのご案内「お菓子の家を作ろう」

日時 平成22年11月27日（土）14：00～17：00

開催場所 住吉生協1階会議室1.2

（徳島市住吉5丁目50）駐車場有り

参加費 500円

定員 20名 小学3年生以上2～4人で1組

申込先 FAX：088-698-2678

E-mail sachicom@nmt.ne.jp



編集後記

◆今年のオペラは12月5日（日）。演目はヴェルディの「仮面舞踏会」。スウェーデン王のグスターヴォは、彼の最も信頼の置ける部下の妻との逢瀬がばれて、ついには仮面舞踏会の夜にその部下に暗殺されるという筋書きです。身に覚えのある方も無い方もとりあえずはご覧になって下さい。チケットはお早めに！（ノーリツ号）

◆メダカが全滅した。（源十一郎）

◆ザリガニが一匹になった。（酎西）

◆辛い！辛い！（ぺぺい）

◆亀の動きが鈍くなってきたわよ。（ひとはたうさぎ）